

# 共に歩む市民の会 会報

たまり場広報委員会

第 13 号

☎241-0022

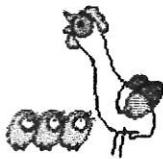
横浜市旭区鶴ヶ峰 2-1-16

☎045-953-6727

2005年3月25日発行

## 産みだすちから 産みだしつづけるちから

川田 剛



2月14日、無事に進水式ならぬ開所式を終え、「ほっとぽっと丸」が船出しました。ここに至るまで皆様から寄せていただいた有形無形のご支援に心より感謝申し上げます。

～海図も磁石もコンパスもない旅へと～ 井上陽水のうたで私の好きな「闇夜の国から」の一節です。まるで今後の「ほっとぽっと丸」を歌っているかのようです。

「ほっとぽっと丸」のもとになったのはいうまでもなく7年ちょっと前に漕ぎ出した「たまり場」という舟です。この小さな舟を産みだしたものは何だったのでしょうか。「人と人との結びつき」だとよく言われます。私も同感です。

「身銭を切ってもやりたい」という声に背中を押され、そこに集っていた色々な立場のボランティアたちが手に手に木のオールを持って漕ぎ始め、波打ち際でさまよっていた舟が進みはじめました。この当事者N夫さんの声は実は決してひとりの声ではなく、目に見えないたくさんの声の後押しをしたのだと思えてなりません。親亡き後の生活に不安を感じつつひっそりと暮らしているN実さん。病院で孤独なおもいを抱えているN子さん。今の生活の「次」が見えない焦りを感じているN太さん・・・たち。一方、オールを手に取ったボランティアたち一人一人の後ろにもたくさんの人が連なっていました。

漕ぎ続けるということが実際はもっともたいへんです。漕ぎ手にはたえず水も食料もなくちゃならない。また、漕ぎ手のリズムがそろわなければ進みません。これは「ほっとぽっと丸」になっても基本的に変わりません。補助金という燃料をいただけるようになったことはとても貴重な支えですが、燃料を燃やし動かすにはモーターやエンジンが必要ですし、進むには舵の方向を定めなくてはなりません。そのちからはどこから来るのでしょうか。

障害者と健常者。当事者と家族。利用者とスタッフ。ボランティアと職員。地域と病院。市民団体と行政・・・立場や所属が違えば思いも利害もぶつかります。そしてたがいの個性の違いも。矛盾は深まる一方で出口はなかなか見つかりません。それでもおたがいを活かすくふうをしなが

ら組む。そのころみを重ねるうちに、あらゆる生命を吹き込んでくれる春風がどこからともなく吹いてくる。そんな予感がします。拠点をごんな場にするか拠点で何をしていくかと同様に、いやそれ以上に「産みだすちから」にこだわっていきたくと思います。

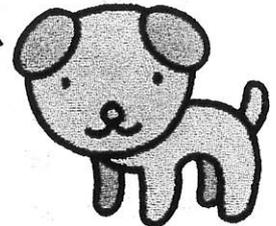
陽水の「闇夜の国から」は「二人で船を出す」のですが、「ほっとぽっと丸」を漕ぐのはあなたを含むひとりひとりです。もしかしたら、この船のホントの姿はむしろ「うねり」みたいな形のないもので、それがいずれは大きな海流を形づくっていくのかもしれない。

暮らしの場で息長くおつきあいしながら、ともにゆっくりといい旅を！

(共に歩む市民の会事務局、ほっとぽっと拠点長)



ということで、  
今回は(勝手に)  
“ほっとぽっと” オープン記念特集号！  
まずは、職員の紹介から・・・



## ほっとぽっと 職員紹介



川田 剛(かわだたけし) さん

◇生まれ=埼玉県草加市。うお座。B型

◆育った場所=熊本、兵庫、大阪。

◇好物=うどん、サンマ、アップルパイ他。

◆近況=作業所から拠点に来てとまどったり新鮮に感じたり毎日の。まだまだとまどう方が多い。

◇いま大事に思っている言葉=『はたらくとは傍(はた)を楽(らく)にすること』

◆好きなこと=野山歩き、畑作り、芝居を観ること、味噌づくり、草野球。

◇苦手なのにやってみたくなこと=楽器をひく、うたう、踊ること。

### 瀧本 里香(たきもとりか) さん

ほっとぽっと常勤職員の瀧本里香です。  
以前は病院の医療相談室で仕事をしていたのですが、2年ほど国外逃亡(?)をし、イギリスで暮らしていました。異文化の中で異邦人として生活をして初めて感じたこと、世界中ほとんどの大陸に友達ができ、パブで飲んだ(飲んだくれた?) ビールのおいしさ! がとってとても大きな宝物になりました。はてさて、これから何をしようかと思っていたところ、ほっとぽっとに拾われました。ほっとぽっとで何ができるのかまだまだ手探りですが、よろしく願いいたします!

### 梅本 陽子(うめもとようこ) さん

『ほっとぽっと』のスタッフとして関わらせていただき、一ヶ月がたちました。その短い期間ではありますが、実感したことは、人と人が結び付き、つながりが広がることで可能性も益々膨らんでゆくんだなあ、ということでした。旭区も「共に歩む市民の会」にも初心者の私ですが、これからゆっくり旭区を散策したり、みなさんと一緒に過ごす中で、つながりを広げ「和」の一部になっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

### 高野 静子(たかのしずこ) さん

昨年「共に歩む市民の会」を特定非営利活動法人として設立し、旭区らしい生活支援拠点をつくりたいと話し合いを重ね、準備の下に「ほっとぽっと」が歩み始めました。その準備に参加し、共に描いた拠点、さらに利用する人々と共に「ほっとぽっと」の活動をつくることを願って、非常勤スタッフとして週3日お邪魔することになりました。1年間宜しくお願いいたします。

### 高橋 成忠(たかはししげただ) さん

リタイアして二年目のある日、思い立って電話相談のボランティア研修に参加したことから高野さんや「共に歩む市民の会」の皆さんとご縁の中でこのような進み行きになりました。暑かったあの夏の日の研修会をいつまでも時々思い出します。

「ほっとぽっと」の職員としては、「話がしやすい隣のおじさん」の役割を果たせればうれしいのですが、本当は皆さんの足手まといになるのではないかと心配しています。ですから、一区切りついたらできるだけ早く次の人にバトンタッチしたいと思っています。そして、時々ボランティアとして「夕食会」のお手伝いができたら最高です。「ほっとぽっと」開所のお手伝いをさせていただいたことを心から感謝しています。



# ほっとぽっとの具(なにかみ)



ほっとぽっと(訳すと鍋料理という意味です。)はその名の通り、ごった煮状態にいろいろな具材が投げ込まれています。まだまだ味がよくしみ込んだり馴染んだりしてきていませんが、ちょっと今までの様子をお知らせします。

\* フリースペース は2月15日から一般オープンとなりました。

現在、

- ◇ 火・水・木・土・祝日は10時から17時まで
- ◇ 金曜日は夕食会もあり、13時から19時まで やっています。

- ・50円で、インスタントコーヒーや紅茶、緑茶はお代わり自由です。
- ・ランチのために、ご飯とインスタントお味噌汁を100円で用意しています。最近ではその日の利用者さんたち皆で作ることが多くなりました。職員はちゃっかり一緒にいただいたりしています。

## 【フリースペース】

利用される方たちは、予想を超えて色々な方たちが来られています。最近では1日の利用者さんが10人を下回ることはなくなりました。以前のたまり場を利用されていた方たちはもちろん、デイケアや作業所で聞いてこられた方、他の生活支援センターで聞いてこられた方。意外?だったのは、広報などを見て来られた、現在どこにも通われていない、通えない方からの問い合わせや来所が結構あることです。沿線の駅まで職員が行くことで、長い間電車に乗れなかった方が、電車に乗って来所できたこともありました。ご家族と一緒になら、と散歩がてら片道40分も歩いてこられる方もいらっしゃいます。利用される方たちの顔ぶれでその日の雰囲気はずいぶん違い、にぎやかな日もあれば、穏やかな日もあり、いろいろな味に仕上がっていくのが楽しみです。

(職員：瀧本)

### 【夕食会とランチ】

『鯛も一人はうまからず』ランチや夕食会では、そんなことわざが思い出されます。二つに共通する、美味しさを更に膨らませるエッセンスとして、「美味しいな」と一緒に感じながら食べる空間の存在は大きいと感じています。夕食会は「たまり場」の夕食会をそのまま引き継ぎ、ちゃんこ番の方々が、季節を取り入れ、丹誠込めた料理を作って下さっています。現在毎回15人～20人の利用者とかんりの盛況ぶりです。

『ほっとぽっと』として新しく始まったランチサービスでは、その日の利用メンバーやスタッフで希望を出しあってメニューを決めています。時には「今日はおかずは買って来ようか」という日もありますが、ご飯と味噌汁は必ず食べれるように用意しています。

身近な「食」を通じて自然と新しい交流が生まれる場になりつつあると思っています。

(職員：梅本)

\* 語らい電話 は3月から水曜、土曜に金曜日も加わり、週3日行われています。



◇ 水・金は18時から20時 / 土曜日は14時から16時

電話の件数もぼちぼちと。第三期のボランティアさんたちもしっかり独り立ちして、優しく電話の対応をしてくれています。ほっとぽっとから紹介した方、また、語らい電話からほっとぽっとを紹介された方などもおり、徐々に役割分担ができてきているようです。

\* 旭びあくらぶ は、びあサポート事業と分かれ、まず仲間作りの場として活動を再開しています。新しい方、久しぶりの方ふくめ、今後の活動のあり方を、ほっとな議論を交わしながら模索中です。



\* その他、開所後には旭区精神保健セミナー、やどかりの里との交流会などがありその懇親会の場としてや、地域の市民団体や作業所の研修、ミーティングの場としても活用していただきました。

また、まだ数件ですが、個別の生活支援の具体的な動きも始まっています。まだまだ職員も手探りで、鍋の中であっちへ行ったりこっちへ行ったりしていますが、ぜひ、多くの会員の皆様にも、様々な、いい味を出す「お出汁」になっていただきたいと思っています。

(職員：瀧本)

## 旭区地域生活支援拠点「ほっとぽっと」開所式に参加して

共に歩む市民の会 松元 紀子

「ほっとぽっと」の開所をどんなにか私達は待ち望んでいたことでしょう。およそ7年前に“共に歩む市民の会”が生まれました。一つの想いに向かって様々な枠を越えた人達が力と知恵を合わせた努力が、平成17年2月14日やっと実を結びました。当事者・家族・ボランティア・地域の自治会・民生委員さん・保健活動推進委員さん・医療関係者・行政の方たち（旭区長・衛生局長）等100名余りが旭区役所大会議室に集い、盛会な開所式となりました。設立に至る経過報告後、来賓の方々から数々の祝辞を戴きました。また、改修工事を担当された山口木材さんに対しては、当会より感謝状を贈呈。閉会後は、旭区役所から徒歩2～3分にある「ほっとぽっと」の見学をしていただきました。

「“ほっとぽっと”の名前には“ほっと一息”と英語の鍋料理を意味する“hot pot”つまり、色々な人が集まり、良い味と元気を出すという二つの意味があります。どうぞ皆様くつろぎにいらして下さい。」と、まず高野理事長よりあいさつ。

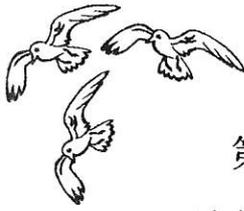
「暖かに迎えてもらえそう。頑張ってください！」

「自分達に必要な自分達らしい地域生活支援センターをどうするのが目下浜家連の関心事です。」

「児童虐待、自殺の増加という問題の解決のためには、地域の受け皿作りが急務と考えます。」

来賓の方々にかような励ましのエールをいただきました。最後に、岸本区長からいただいた言葉を結びとしてお伝えします。「“ほっとぽっと”は横浜市で地域生活支援センターB型としては第1号です。色々な立場の人達による民営が特徴。当センター設立にあたっては、地域の方達の理解と支援が大きいものでした。“ほっとぽっと”が根を張り、成長していくよう地域の方達ははじめ皆さん、これからもどうぞ見守ってください。」





## 第6回 旭区精神保健福祉セミナーに参加して

障害をもった私にできること～私が変わる・仲間が変わる～

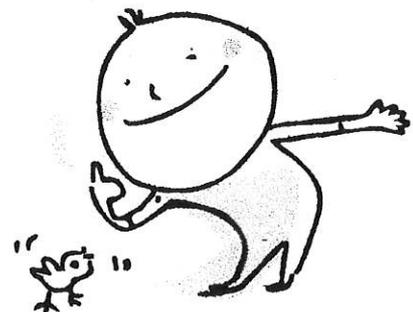
旭福祉保健センター 森 輝幸

今回で6回目を迎えたセミナーは、5回を一区切りと考え、新たな出発をしていこうという点からスタートしました。そのため、まずどのようなセミナーにしていきたいのか検討を行い、「ピアサポートについて知りたい」「そのような活動を行っている団体はどこだろう」という話が実行委員会の中であがりました。それをふまえ、ピアサポートにおいて先駆的な取り組みをしている“こらーる・たいとう”を呼ぶこと、みんなが自由に気持ちを伝えあえるフリートークが新たな試みとして採用されました。

当日は、今までの体験を一生懸命話された石井さん・自分の夢をしっかりと伝えた村上さんの体験談に大きな拍手が沸き起こりました。また、こらーるの加藤さんの実体験をふまえたこらーるを立ち上げるまでの軌跡に皆さん感銘を受けているようでした。

午後は、フリートークを初の試みとして行いましたが、それぞれ独自の話題で大いに盛り上がったようです。メンバーがメンバーに対しアドバイスを言い、お互い真剣に伝え、受け止めている姿はピアサポートの一端を見れた気がしました。最後に、こらーるの富山さんの長年の入院生活から地域・海外へ自分の活動が広がったという熱のこもった体験談を聞かせていただき閉会となりました。

今回の新たな試みが、今後どのように生かされるかは、また実行委員会で話し合う予定になっています。最後になりますが、加藤さんの海外交流の話に出てきた「カナダ雁は傷ついた仲間を置いていかない」という話が印象に残りました。そんな温かいピア（仲間）が根付く一助に今後もセミナーがあってほしいと思いました。



## <カンパのお願い!!>

「ほっとぽっと」では、ゆっくりとした場づくりと活動を行うための環境の整備を進めておりますが、以下の物がまだ不足しております。皆様の御協力をお願いいたします。

☆ 大型テレビ

☆ オーディオ設備

☆ 食事づくりのための冷蔵庫

☆ 訪問のための自動車(中古) など

\* 当面の目標額 100万円 一口 500円

\* 目標達成期限 平成17年 4月

みなさんのあたたかいカンパ  
お待ちしております!



### 編集後記

- ・「ほっとぽっと」の誕生は、粘り強い活動の積み重ねの賜物。これからも相談しながら笑顔で共に歩いていきたいものですね。[松元]
- ・「ほっとぽっと」の誕生は、地域と関係者の協力があって出来上がったものだと思います。新しい物事を立ち上げるには労力もかかりますが、他には無い経験が得られたのも事実です。この号もそんな記念になればうれしいです。[森]
- ・遂に「ほっとぽっと丸」が船出しました。いつも順風満帆とは行かないでしょうが、皆の力で好い波・良い風を引き寄せられればうれしいです。[松迫]
- ・“ほっとぽっと” = “ごった煮”。でも、ごった煮っておいしいですよ♪いろんなものがひとつになって生み出される初めてのおいしさ、拠点“ほっとぽっと”でもそんなおいしさが生み出されるといいですね。[高木]